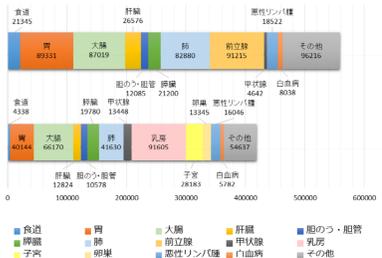


がんの早期発見～健診～

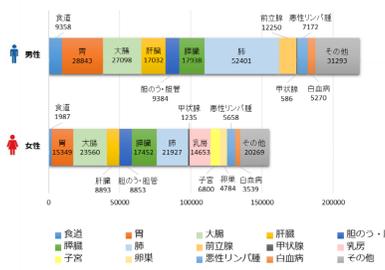
日本のがん罹患数と死亡数

我が国のがん罹患数（新たにがんと診断された数）は、地域がん登録で把握されたデータから全国値が推計されている。それによると、平成29年に新たに診断されたがんは約97万7千例であり、男性が女性の約1.3倍になっている。部位別の罹患数は、男性では「前立腺」が最も多く全体の16.3%を占め、次いで「胃」16.0%、「大腸」15.6%の順、女性では「乳房」が最も多く21.9%、次いで「大腸」15.8%、「肺」9.9%の順となっている。

部位別がん罹患数（平成29年）



部位別がん死亡数（平成30年）

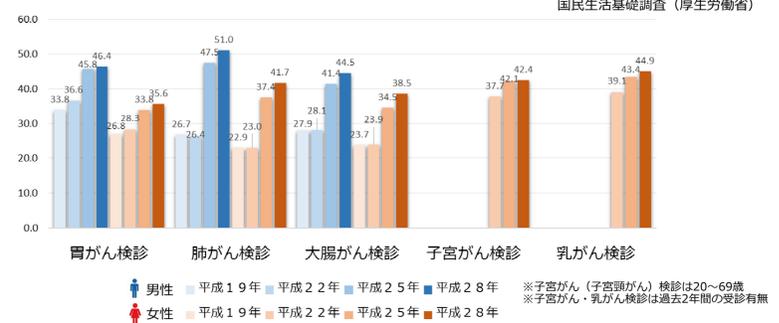


平成30年の死亡数は約136万人、うち死因第1位のがんの死亡数は37万3千人（男性約21万8千人、女性約15万5千人）であり、約3人に1人の人が「がん」で亡くなっている。がん死亡数を部位別に見ると「肺」が最も多く7万4千人（19.9%）、次いで「大腸」5万人、「胃」4万4千人、という状況であり、この順位も前年から変わっていない。男性では、「肺」、「胃」、「大腸」、「膀胱」の順、女性では、「大腸」、「肺」、「膀胱」、「胃」、「乳房」の順で多くなっている。

1

日本のがん健診受診状況

男女別がん健診受診率（40～69歳）の推移

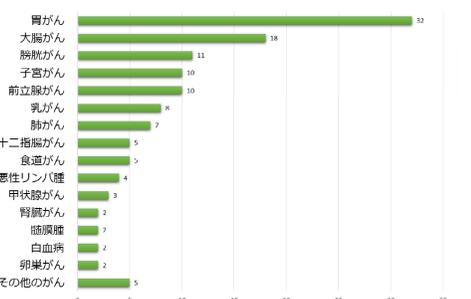


平成28年過去1年間にがん健診を受診した者は、男女とも「肺がん健診」が最も高く、男性51.0%、女性41.7%、過去2年間を対象とした子宮がん（子宮頸がん）、乳がん健診ではそれぞれ42.4%、44.9%となっている。いずれの健診においても上昇傾向となっている。要因の一つとして、政府が策定した「がん対策基本法」に基づく「がん対策推進基本計画」に、5年以内がん健診受診率50%（胃、肺、大腸は当面40%）と目標を掲げ、国の政策としての受診率向上に向けた取り組みが地域・職域・国民に浸透し始めてきたことが挙げられる。

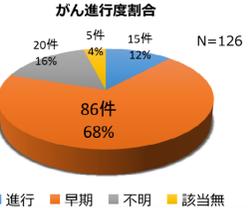
2

当院健診センターにおけるがん発見数

がん発見数（平成27～29年累計）



当院の健診センターにて、発見された「がん」または異常を指摘され精密検査（二次検査）で発見された「がん」は、平成27～29年の3年間で126件です。胃がん検診数が増加していることもあって、「胃がん」が一番多く発見されており、次いで「大腸がん」、「膀胱がん」、「子宮がん」、「前立腺がん」となっています。



近年の医学の進歩により、早期がんであれば治せる可能性は非常に高く、治療も軽くなる傾向が多いため、患者さんにかかる身体的負担、経済的負担や時間は一般的に少なくなっています。重い自覚症状をきっかけに進行がんが見つかった場合の治療は、身体にかかる負担が大きかったり、時間がかかり、治すことが難しいこともあります。早期の段階で見つけられるように、人間ドックやがん健診は定期的に行うことをお勧めします。

発見されたがんの進行度（がんの広がり）を見ると、「早期」が68%と大半を占めています。人間ドックやがん健診は、基本的に特段の自覚症状もなく、健康的に日常を過ごしている人を対象にしており、そういう人に「がん」が見つかった場合、そのがんは早期がんである可能性が高いと言えます。

3

胃がん検査

胃がんの一次健診では、問診と胃のX線検査・胃内視鏡検査が国の指針で勧められています。当院健診センターの胃内視鏡検査では、快適・最新・優しい健診を目指し、下記のようなメリットが多くある「経鼻内視鏡」を導入し検査を実施しております。

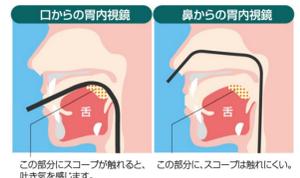
①苦痛が少ない



経鼻内視鏡検査で使用するスコープの直径は5.4mmと、経口内視鏡の8.9mmと比べてかなり細くなっているため、痛みを感じることはほとんどありません。しかも、柔軟性があるために、鼻腔内に入れても硬いものが入っているという異物感あまり感じず、また、鼻腔内には麻酔剤を塗布するため、鼻の痛みもほとんどありません。

②嘔吐反射（えずき）が起きにくい

スコープを鼻から挿入する経鼻内視鏡検査では、スコープが舌根部に触れず消化器に到達するため、嘔吐感や窒息感はほとんどありません。



嘔吐感や窒息感はほとんどなく、スコープが「のど」に触れないため、検査中は会話が可能です。モニターに映し出される自分の胃の映像を見ながら、医師に質問したり、説明を受けたりすることもできます。

③会話ができる



4

子宮頸がん検査

日本での子宮頸がん検診受診率は40%程度にとどまっているのが現状ですが、欧米での検診受診率は高く、アメリカでは80%以上の女性が検診を受けています。早期に発見すれば、子宮頸がんは比較的予後の良い「がん」であるため、特に症状がなくても、20歳を過ぎたら定期的に子宮がん検診を受けることをお勧めします。

子宮頸がん検査の流れ

- 問診
問診票に、月経周期や直近の月経の様子、生理痛の有無や月経血の量、妊娠歴、閉経した年齢などを記載していきます。
- 内診
膣鏡を膣内に挿入し、子宮頸部を観察します。おりもの状態や炎症の有無を目で確認します。
- 細胞診
ブラシやペーパーなどで子宮頸部を優しくこすり、細胞を採取します。ほとんど痛みは無く、短時間で済みます。



子宮頸がん検査（細胞診）に併せて実施可能な検査

●経膣超音波検査

子宮頸がん検査（細胞診）の時、膣に細長い超音波の器具を入れ、子宮や卵巣の状態を調べます。器具による痛みはほとんどありません。内診では分からない子宮や卵巣の病気を見つかります。

●HPV検査

子宮頸部の細胞を採取して、子宮頸がんの原因となるHPV（ヒトパピローマウイルス）に感染しているかどうかを調べます。子宮頸がん検査（細胞診）と同時に実施できます。HPV検査を併用することにより、異常を検出する精度が向上します。

5

乳がん検査

乳がんは女性が患うがんの中で最も多いがんです。最新の2013年のデータでは、生涯に乳がんを患う女性は11人に1人と推定されています。当院では、乳房X線（マンモグラフィ）撮影と乳房超音波検査を実施しています。

●マンモグラフィ

マンモグラフィは乳房をはさんでレントゲン撮影を行い、乳がんの初期症状である微小石灰化や、触診ではわかりにくい小さなしこりを画像として捉えることができる乳がんの早期発見に有効な検査とされています。



●乳房超音波検査

乳房超音波検査は、乳房に超音波をあてて乳房内部を観察し、小さなしこりをみつけ、その性状を詳しく調べるのに適した検査です。40歳未満の方は乳腺密度が濃く、マンモグラフィの有効性ははっきりしていないため、超音波検査をお勧めします。



肺がん検査

肺がんは男性の死因の第1位、女性でも大腸、胃がんについて第3位、しかも年々増加しています。当院の肺ドックでは、胸部CT検査と喀痰細胞診検査を実施しています。

●胸部CT検査

胸部CT検査では、高性能マルチスライスCT装置により、胸部X写真では見つけにくい心臓など臓器の裏に隠れた肺がんや、1cm以下の早期肺がんも発見できるようになっています。



●喀痰細胞診検査

肺の組織から剥がれ落ちて痰に混じったがん細胞を検出する検査です。顕微鏡で喀痰中のがん細胞の有無をチェックします。なお、肺がんがあれば必ず痰にがん細胞が混じっているとは限りません。



喫煙者、痰や頑固な咳・胸の痛みなど病状がある方、肺がんの血縁者がいる方にお勧めします

6

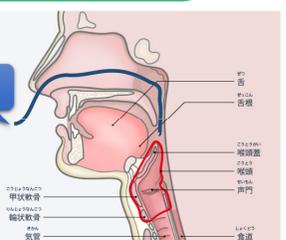
前立腺がん検査

がんの可能性のある人を見つけるための検査としてPSA検査というものがあります。PSA検査とは、血液中にある前立腺に特異的なタンパク質の一種「PSA」の値を、血液検査により測定する検査です。スクリーニング検査のなかで、もっとも精度が高く、簡単に行うことができるのがPSA検査です。

PSA値が正常の値よりも高ければ「前立腺がん」が疑われることになり、PSA値が高くなるにつれてがんの確率も高くなっていきます。しかし、PSA値が正常値より高値だからといって、必ずしも前立腺がんであるとは限りません。前立腺肥大症や前立腺炎でもPSA値が高値となることもあります。

50歳以上、前立腺がんの血縁者がいる方にお勧めします

喉頭がん検査



喉頭とは声帯が存在している器官で、咽頭と気管の間に位置しており、この部位に生じる悪性腫瘍を喉頭がんといいます。喉頭がんは喫煙や飲酒が要因となっており、罹患率の男女比では圧倒的に男性のほうが高く、その数は10倍にも昇っています。喉頭がん検査は、鼻腔内に局所麻酔をしたうえで、直径4mmのファイバースコープを鼻から挿入します。咽頭・喉頭を観察し、上～下咽頭がん、喉頭がん、声帯ポリープなどの鑑別を行います。1ミリ程度の小さながんまで発見することが可能です。痛みはほとんど無く、1～2分ほどで終了します。

喫煙者、お酒をほぼ毎日飲まれる方、声のかすれ・のどの違和感がある方にお勧めします

7

当院の人間ドックのご案内

当院健診センターは『病気の早期発見に努め、健康で快適な生活がおくれるよう支援します。』を理念に掲げ、精度の高い健診を提供するために、医療知識の取得および技術向上に努め、病気の早期発見と早期治療、快適な環境で優しい健診が受けられる健診センターを目指します。

当院の人間ドックの特徴

専任医師による診断

専任医師が検査・診断にあたります。なお、画像診断では一人の診断に複数医師が関わって診断します。

アフターケアの充実

検査の結果、異常が発見された場合は、ご希望により専門診療科で精密検査や治療が受けられます。

健診施設の設備

一部の検査を除き、検査を健診センター内でできます。女性専用エリアで女性の方にも、より快適に受診していただけます。

オプション検査の充実

ご希望により別途料金で、いろいろなオプション検査が受けられます。

当院ではみなさまの健康管理のお手伝いをさせていただきます。是非、この機会に人間ドックをご利用ください。

8